

## 魚住グループが指導協力した羽根渕 高弘さん(岡崎高校)が 第45回国際化学オリンピックで銀メダルを受賞

2013年を迎えてほどなく、分子研広報の大島教授から「岡崎高校の学生が国際化学オリンピックの日本代表最終選考に残っているの、最終予選に向けた練習・指導をお願いできないか」と打診をいただきました。う～ん、どうなることやら、どうしたものやら……。化学オリンピックは名称を聞いた事がある程度で、その内容も実態もまるでわからないけど、まあ何とかなさ。と、お引き受けすることとなりました。とくに魚住グループでは大迫、浜坂の2名の助教に加え、永長博士研究員も化学全般をカバーする基礎学力がとて高く、広く基礎化学の「足腰」を鍛えるための指導なら、この3名に全幅の信頼がおけると判断したのです。



さて、ほどなく岡高の先生に伴われ、いよいよ本人、羽根渕君の登場です。指導方針の擦り合わせ、準備問題や実技課題テキストの確認をする中で“むむむ、こいつはできるぞ！ 素直でいいヤツだし。うちの大学院生より既に上ではないのか？”と期待と責任が大きく膨らんでいきます。実際の実地指導などはとても筆者（魚住）の手に負えるものではなく、全面的に現場の3名にお任せです。滴定とか粘度測定とか、久しぶりに見る懐かしの“古典”、“王道”的な化学実験。いやあ、勉強になりました。羽根渕君は高校の授業終了後に魚住実験室に日参し、日々実験、実習、鍛錬の毎日でした。準備問題や実技課題も大学の化学科卒業、つまり学士のレベルに相当するものです。紙の上での化学のみならず実験操作の意味を理解する力も最高レベルの逸材ですから、その実力はメキメキ磨かれて行きます。

さてさて、3月。日本国内最終予選は見事に合格！ いよいよ7月のロシアでの本選「国際化学オリンピック」に向けて、それまでのアクティビティーを継続することとなりました。その頃には、もはや羽根渕君がラボに居るのが当たり前になっていました。そしてとうとう遥かロシアの地に本番です。魚住グループの3名の“師範”も手を出せない遥かなるモスクワ。ただ祈るばかり……。

そして、とうとう待ちに待った朗報が飛び込んできました。「銀メダル獲得！！！！」おめでとうございます。本当に素晴らしい。なお、岡崎高校は本年「第2回 科学の甲子園全国大会」で優勝している。化学オリンピックの準備に集中するために羽根渕君という化学のエースを欠いての全国制覇。底力がありますね。本当に素晴らしい成果です。

羽根渕君ならびに岡崎高校への祝福とともに、指導に心血を注いでくれた大迫、浜坂、永長の3博士に心から感謝いたします。8月、お盆の休み前に羽根渕君を迎え、上記3博士と魚住の5名でピアガーデンにてお祝いのジンギスカンパーティーを催しました（写真はそのときのもの）。祝い酒って美味しいですね！（もちろん主賓の羽根渕君はソフトドリンクですよ。）

（魚住 泰広 記）

補足：国際化学オリンピックとは、約60カ国から200名を超える高校生が参加し、実験問題と筆記問題の成績を競う化学の国際大会。問題回答時間は、実験、筆記試験を合わせて、10時間に及ぶ。実験試験では、正しい実験結果・考察が得られたかはもちろん、実験器具の使い方や手際なども厳密に審査される。筆記試験では、大学レベルの化学知識を問う問題が中心で、中には大学院レベルのものもあり、非常に難度が高い（高校化学では、全く歯が立たない）。個人戦として競われ、成績優秀者には、金メダル（参加者の10%）、銀メダル（参加者の20%）、銅メダル（参加者の30%）がそれぞれ贈られる。国際化学オリンピック日本代表に選考されるためには、全国高校化学グランプリ（日本化学会「夢・化学-21」主催：一次および二次選考）に参加し、上位の成績挙げ、さらに最終代表選考会（三次選考）にて、トップ4に入らなければならない。今回の第45回ロシア大会では、羽根渕君を含めた日本代表4名全員が銀メダルを獲得した。

（大迫 隆男 記）

参考：国際化学オリンピックHP: <http://icho.csj.jp/index45.html>、『化学オリンピック完全ガイド』化学オリンピック日本委員会編、渡辺正監修、化学同人、2008年

